

特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。

(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

< 特筆すべき教育活動 >

1. 全学教育情報教育の改革

学部新生に対する毎年のアンケート調査に基づき、新生が情報技術にどのように向き合っているかの標準的な姿を明確にした上で、本学の教養教育改革に整合する全学教育「情報基礎」の内容を策定し、平成 22 年度から実施した。情報技術を通じてアカデミック・スキルを育成し、情報社会の倫理と法令に取材してソーシャル・スキルを育成することを目指すものである。具体的な教材には、新生が大学の情報教育に期待するとアンケートで答えたものを採用し、さらに FYE (初年次経験) としての刺激も盛り込んだ、日本の高等教育機関としては先進的な内容を含む特色あるものとなっている。

< 特筆すべき研究活動 >

1. 教育情報化基盤の在り方に関する研究

教育の情報化とは、授業運営で求められる出席簿、教材提示、レポート提出、小テスト、オフィスアワーなどの基本的な作業をデジタル化することで、学生に対する教育サービスの向上と、それを提供する教員の作業効率の向上とを同時に達成することを目指すものである。教育情報基盤戦略会議(全学委員会)は、平成 21 年度から平成 22 年度にかけて、今後の教育情報化基盤の整備計画を検討しとりまとめた。報告書では、教育現場での諸問題を情報技術によってどこまで解決できるかを精緻に分析している。その最大の特長は、現有システムを最大限に活用して財政的負荷を最小化するだけでなく、運用の工夫により諸問題の大部分を解決できる方策が結論として示された点である。

< 特筆すべき社会貢献活動等 >

1. 「平成 21 年度情報教育研究集会」の開催

本研究集会は教育情報基盤センターが組織委員会の中心として、東北大学主催、文部科学省後援で平成 21 年 11 月 14 日(土)と 15 日(日)の両日、東北大学川内キャンパスで開催されたものである。同研究集会は国公立の大学、短大、高専で情報教育と教育の情報化を担当する教員を対象として毎年開催されている。今年度は 418 名の参加者を得て、108 件の一般講演と 28 件のポスター発表があった。特別講演は「情報社会：2016 年」と題し、次の高等学校学習指導要領を修めた学生が入学する 2016 年(平成 28 年)において、大学が提供すべき情報環境や情報教育の内容などを示唆するものとして企画され、参加者に強いインパクトを与えた。